



若田光一宇宙飛行士国際宇宙ステーション長期滞在時のイベントについて

概要

若田光一宇宙飛行士が第18次/第19次長期滞在クルーとして国際宇宙ステーション (ISS) に滞在する予定です。

九州大学では、若田宇宙飛行士の ISS 長期滞在時に福岡県、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 日本宇宙少年団との共催でライブ交信を予定しています。

また、若田宇宙飛行士は公式飛行記念品(Official Flight Kit:OFK)として、九州大学のシンボルロゴ等入りのポロシャツを ISS に携行することになりました。

■内 容

若田光一宇宙飛行士 (九州大学工学部卒業、九州大学大学院工学研究科修了) はこれまで1996年1月、2000年10月の2回にわたりスペースシャトルに搭乗し、多くのミッションを成し遂げてきましたが、今回、日本人として初めて、国際宇宙ステーション (ISS) に長期滞在する予定です。

今回、ISS 長期滞在時の記念イベントとして2009年3月中に、福岡県、JAXA、日本宇宙少年団との共催のもと、医学部百年講堂において、ISS 滞在中の若田宇宙飛行士とのライブ交信を行うことを予定しています。

また、若田宇宙飛行士及び九州大学の強い希望により、九州大学シンボルロゴ、百周年ロゴ及び大学院工学府航空宇宙工学専攻ロゴマーク入りのポロシャツを公式飛行記念品(OFK)として携行することになりました。

■イベント、OFK について

1. ISS 滞在中の若田光一宇宙飛行士とのライブ交信 (資料1-2参照)

日時：2009年3月中 20:00~21:30 (予定)

会場：九州大学医学部百年講堂大ホール (病院キャンパス内)

イベント内容：

- ① JAXA 職員等による宇宙授業 (講演)
- ② 若田宇宙飛行士とのライブ交信 (15分~20分程度)

主催：九州大学、福岡県、(独)宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、(財)日本宇宙少年団

2. 公式飛行記念品 (OFK) について (資料1-3参照)

これまで若田宇宙飛行士は2回のスペースシャトル搭乗時に、それぞれ九州大学の校旗や九州大学総長等の激励メッセージ入りの CD-ROM を OFK として携行しましたが、今回も若田宇宙飛行士及び九州大学の強い希望で九州大学の関連グッズを携行することになりました。

今回、携行するのは九州大学のシンボルロゴ等入りのオリジナルポロシャツです。ポロシャツの左胸には九州大学のシンボルロゴ、右胸には大学院工学府航空宇宙工学専攻のロゴマーク、また、背中には2011年に百周年を迎える本学の百周年記念事業のシンボルマークがプリントされています。

なお、このポロシャツは若田宇宙飛行士の帰還後に NASA の飛行証明書と共に九州大学に返還されます。

【お問い合わせ】

九州大学広報室 福島、深堀

電話：092-642-2106, 7049

FAX：092-642-2113

Mail：koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

平成21年2月20日



福岡県



九州大学

担当課	青少年アンビシャス運動推進室
内線	2882、2883
直通	092-643-3615
担当	企画広報班 石松、齊木

若田光一宇宙飛行士との ライブ交信決定



～宇宙からエール！！若田光一さんから福岡のアンビシャスな子どもたちへ～

- 福岡県では、豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持ったたくましい青少年を育成する県民運動「青少年アンビシャス運動」を展開しています。この青少年アンビシャス運動委員会の会長である若田光一宇宙飛行士が、いよいよ日本人として初めて国際宇宙ステーションにおける長期滞在に出発します。
- 福岡県では、九州大学と共に、県民と国際宇宙ステーションに滞在する若田飛行士とのライブ交信をお願いしていたところ、米国航空宇宙局（NASA）と協議が整った旨、宇宙航空研究開発機構（JAXA）から連絡がありました。
- ライブ交信は、福岡県、九州大学、宇宙航空研究開発機構、日本宇宙少年団の共催で、3月中に九州大学医学部百年講堂で実施する予定です。
- 青少年アンビシャス運動に参加している子どもたちや九州大学の学生、麻生渡福岡県知事、有川節夫九州大学総長など5名程度が県民を代表して若田飛行士と交信する予定です。
- ライブ交信で若田飛行士に行う質問を募集しますので、たくさんの応募をお待ちしています。
- なお、交信日時が決まりましたら、入場希望者を募集いたします。
- また、若田飛行士が搭乗するスペースシャトルには、昨年、県内の子どもたちがデザインした「アンビシャスの旗」も搭載されます。

1 主催

福岡県、国立大学法人九州大学

独立行政法人宇宙航空研究開発機構、財団法人日本宇宙少年団

2 概要（予定）

- (1) 日時 平成21年3月中 午後8時から午後9時30分
- (2) 会場 九州大学医学部百年講堂（福岡市東区馬出3丁目1番1号）
- (3) 内容 第1部 JAXA職員等による宇宙授業（講演 60分程度）
第2部 若田飛行士とのライブ交信（15分～20分程度）
（麻生知事、有川総長ほか数名）

3 「若田宇宙飛行士への質問」応募方法

①氏名、②年齢（学年）、③住所及び必ず連絡が取れる電話番号を明記の上、④質問を100字程度にまとめて、福岡県青少年アンビシャス運動推進室に郵送、ファクスまたはEメール送信してください。

応募いただいた方には、実施日時が決定次第、入場希望者募集のご案内をいたします。

＜応募先＞ 福岡県青少年アンビシャス運動推進室

住所：〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

FAX：092-643-3389

Eメール：ambitious@pref.fukuoka.lg.jp

※ 注意事項

○若田宇宙飛行士と直接交信できるのは、時間の都合上代表者1～2名程度となりますので、あらかじめご了承ください。

○寄せられた質問は、取りまとめて分類の上、代表者に交信していただきます。

4 その他

本件については、本日(2/20)午後4時30分、九州大学有川総長の定例会見においても発表します。

問い合わせ先：九州大学総務部総務課広報係 深堀 092-642-7049

5 参考資料

○若田光一氏プロフィール・・・・・・・・・・P3

○宇宙航空研究開発機構の概要・・・・・・・・P4

○日本宇宙少年団の概要・・・・・・・・・・P5

○青少年アンビシャス運動の概要・・・・・・・・P6

若田光一 (わかた こういち) 氏プロフィール (JAXA ホームページより抜粋)

宇宙航空研究開発機構 有人宇宙環境利用ミッション本部
有人宇宙技術部 宇宙飛行士

米国テキサス州ヒューストン在住

身長 169cm、体重 61kg

趣味：ハンググライダー、野球、テニス、スキー等



1963 年 (昭和 38 年)、埼玉県大宮市生まれ。

1982 年 3 月、埼玉県立浦和高校卒業。

1987 年 3 月、九州大学工学部航空工学科卒業。

1989 年 3 月、九州大学大学院工学研究科応用力学専攻修士課程修了。

1989 年 4 月、日本航空 (株) 入社。整備訓練部所属。

1989 年 7 月、成田整備工場点検整備部に所属。

1991 年 7 月には、技術部システム技術室機体技術グループに転属し、機体構造技術を担当する。

1992 年 4 月 28 日には、国際宇宙ステーション (ISS) / 「きぼう」日本実験棟の組立・運用に備え、
宇宙開発事業団が募集していたミッションスペシャリスト (MS) 候補者に選ばれる。

1992 年 5 月 31 日、日本航空 (株) を退職。

1992 年 6 月 1 日、宇宙開発事業団により職員として採用される。

1992 年 7 月 4 日、米国航空宇宙局 (NASA) が実施する MS・パイロット候補者訓練用の第 14 期宇宙
飛行士候補者養成コース参加のため渡米。

1992 年 8 月、上記訓練コースに参加。

1993 年の 8 月 3 日、一年間の訓練を経た後、NASA により、MS として認定された。

引き続き、将来の国際宇宙ステーション計画への参加を目指し、NASA 施設にてスペースシャトル搭
乗/操作模擬訓練やシステム運用訓練等の MS 上級コースに従事。

2000 年、日本人として初めて ISS 建設に参加

現在、ISS 第 18 次/第 19 次長期滞在に向けて訓練中

○搭乗ミッション

STS-72 ミッション (1996 年) スペースシャトル・エンデバー号に搭乗

1996 年 1 月 11 日 18 時 41 分 (日本時間) 打上げ、同年 1 月 20 日 16 時 42 分 (日本時間) 着陸

STS-92 ミッション (2000 年) 国際宇宙ステーション (ISS) の組立を目的としたミッション

2000 年 10 月 12 日午前 8 時 17 分 (日本時間) ~10 月 25 日午前 5 時 59 分 (日本時間)

若田宇宙飛行士はシャトルのロボットアームを操作して、Z1 トラスと PMA-3 を ISS に取り付け
たり、船外活動を支援。

STS-119 ミッション (米国時間 2009 年 2 月 27 日以降打上げ予定)

第 18 次/第 19 次長期滞在 (2009 年 2 月~約 3 ヶ月半滞在予定)

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA : Japan Aerospace Exploration Agency)



理事長 立川 敬二 (たちかわ けいじ)

○沿革

2003年10月、宇宙科学研究所 (ISAS)、航空宇宙技術研究所 (NAL)、宇宙開発事業団 (NASDA) が1つになり、宇宙航空分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して行うことのできる機関が誕生しました。

それが、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 JAXA (ジャクサ) です。

宇宙開発利用と航空研究開発は、国の政策目標を達成していくための手段であり、問題解決に貢献することは JAXA にとって重要な使命です。JAXA はこの自らの使命を実現するため、2005年4月に「JAXA 長期ビジョン “JAXA2025”」を提案しました。

JAXA は、「空へ挑み、宇宙を拓く」というコーポレートメッセージのもと、人類の平和と幸福のために役立てるよう、宇宙・航空が持つ大きな可能性を追求し、さまざまな研究開発に挑みます。

○本社所在地 東京都調布市深大寺東町7-44-1

○ライブ交信担当部署 (筑波宇宙センター)

有人宇宙環境利用ミッション本部 事業推進部

担当：河野、大竹 電話 029-868-5000 (代表)

○ホームページ

<http://www.jaxa.jp>

財団法人日本宇宙少年団 (YAC: YOUNG ASTONAUTS CLUB-JAPAN)

～『宇宙時代の地球人』を育てたい・本物にこだわった宇宙教育実践活動!!～

地域に根ざした独創性豊かな分団活動

全国に約3,000名の団員、約800名の指導者を擁する日本宇宙少年団(YAC: Young Astronauts Club - Japan)は、1986年設立以来、団員登録人数20,000名(延べ)を超え、全国に広がる宇宙教育実践ネットワーク組織化された約120分団を中心に、科学工作・実験、自然・天体観察、野外・社会貢献活動など次世代を切り拓く『宇宙時代の地球人』を育む活動・事業を展開しています。

また、日本を代表する宇宙機関であるJAXA(宇宙航空研究開発機構)宇宙教育センターとの宇宙教育活動に関する協定に基づいた本格的な連携・協力の取り組みも始まっています。



理事長・本部長
松本零士
まつもとれいじ



団長
毛利衛
もうりまもる



副団長
山崎直子
やまざきなおこ



副団長
古川隼
ふるかわさとし



YAC本部が主体となり実施する宇宙ホンモノ体験活動・事業に加え、全国約120の分団では、JAXA宇宙教育指導者セミナーを修了した指導員(ボランティア: 教員、会社員、学生などさまざま)が中心となり、月1~2回程度、地域の団員が集い、指導員の企画・運営のもと、科学工作、実験、自然観測、天体観察、野外活動、社会貢献活動など様々な活動が行われています。

福岡県
・福岡分団
(分団長: 麻生茂)
・北九州分団
(分団長: 松本将)

★宇宙★

宇宙機技術(ロケット・人工衛星の設計、水ロケット、モデルロケットなど)／宇宙開発の歴史を学ぶ／宇宙での生活(宇宙飛行士講演、微小重力実験など)／惑星を学ぶ、星空・天文を学ぶ／自然の厳しさを実感し、冒険心を養う(アウトドア体験)

★科学(工夫)★

科学を知るための各種実験・工作(ロボット、ソーラーカーや紙飛行機など)／宇宙時代の文化・芸術(ダンス、絵画、衣服、食事、玩具など)／宇宙法・宇宙ビジネス等、新たな社会科学

★地球(いのち)★

地球観測データの分析／里山探索(自然学習)／地球環境問題への取り組み、住み良い地球(地域清掃)／友達と仲良くなろう(キャンプ体験)／世代を超えた科学交流(高齢者施設での活動など)／海外との交流を行う(YAI活動)

※活動・事業内容などの最新情報については、YACウェブサイト(<http://www.yac-j.or.jp>)でご確認ください。

★宇宙教育=人づくり教育

宇宙教育は、さまざまな「宇宙」素材を用いて、冒険心、好奇心、匠の心を持ち、かつ、いのちの大切さを理解した次世代の日本を担う青少年の人材育成、人格形成を行うものです。YACでは、宇宙に行くことができるような時代「宇宙時代」に、自分の育った町や国のように地球を、自分の故郷と感じ、グローバルな視点で地球を愛し、大切にし、そこに住む人々を愛せる人「地球人」を育てるため、「宇宙からの視点による思考」「地球を尊び、地球を守る行動」「いのちの大切さを知る心」を育むことを目標に活動しています。

【お問い合わせ先】〒229-0033 神奈川県相模原市鹿沼台1-9-15 プロミティふちのペビル1階

担当: 事務局長補佐/業務推進グループ長 上村(かみむら)

TEL: 042-705-8073 FAX: 042-704-3477 E-mail: yacj@yac-j.or.jp

青少年アンビシャス運動の概要

1 目指すもの

「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つ（アンビシャスな）たくましい青少年の育成」

2 経緯

家庭や地域社会の教育力の低下、学級崩壊やいじめ、また、完全学校5日制の実施など青少年を取り巻く環境や社会の変化などを背景として、「青少年アンビシャス運動100人委員会」からの中間報告を受けて、平成13年度から県民運動として始まる。

開始から5年間の運動の成果を検証するとともに、今後5年間の運動方針についての検討を経て、平成18年1月15日に第2期青少年アンビシャス運動がスタートし、併せて、青少年アンビシャス運動委員会会長に宇宙飛行士の若田光一氏が就任しました。

3 概要

〈原則〉

- ①誉めて伸ばそう ②自主的参加 ③交流・評価

〈アンビシャスな青少年になるための7の提案〉

- ①家庭でしっかりしつけをしよう
②地域ぐるみで子どもを育てよう
③学校でアンビシャス運動を進めよう
④読書をしよう
⑤自らを鍛え、得意技を持とう
⑥世界の青少年と切磋琢磨しよう
⑦大学も企業もアンビシャス運動を応援しよう

〈第2期の目標〉

- ①参加団体2,000を目指す ②活動のネットワークづくり ③自尊感情の向上

4 推進体制

〈青少年アンビシャス運動委員会〉

運動の具体的な事業について総合的に検討・評価する組織として、平成13年5月8日に発足
会長 若田光一（宇宙航空研究開発機構宇宙飛行士）

〈青少年アンビシャス運動推進本部〉

運動を推進していくための核となる組織として、平成13年5月16日に発足
本部長 麻生 渡（福岡県知事）

〈青少年アンビシャス運動地域推進部会〉

地域において運動の広報活動を行う組織として、平成13年5月8日に設置

〈青少年アンビシャス運動支援の会〉

参加団体の活動を資金的に支援するため、県内企業により平成13年10月30日に設置

5 現状

〈参加団体〉

1,315団体（平成21年1月1日現在）

〈平成21年度事業〉

- ・アンビシャス広場の開設（平成21年1月1日現在 258か所）
 - ・青少年アンビシャスの翼
 - ・アンビシャスカレンダーの作成
 - ・本のわくわく探検事業
 - ・サマーキャンプの実施等
- 20事業（教育庁、警察本部事業含む）

前

左胸：九州大学シンボルロゴ

右胸：九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻ロゴマーク をプリント



背中

百周年記念事業シンボルマーク をプリント

